

延原武春 指揮

Takeharu Nobuhara &  
Telemann Chamber Orchestra

# テレマン室内オーケストラ

モーツァルトを愛した都市“プラハ”  
交響曲に秘められた「フィガロの結婚」

## PROGRAM

- J.ミスリヴェチェク：交響曲 ハ長調  
W.A.モーツァルト：ピアノ協奏曲 第25番 ハ長調  
W.A.モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」室内楽編曲版より  
第9曲 「もう飛ぶまいぞこの蝶々」  
第13曲 「さあ膝をついて」  
第15曲 「開けて、早く、お開けなさい」  
W.A.モーツァルト：交響曲 第38番 ニ長調「プラハ」

指揮：延原武春

管弦楽：テレマン室内オーケストラ

フォルテピアノ：高田泰治

2026. **3/5** 木 2:00PM開演 (1:30PM開場) 兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール  
A¥4,000 B¥3,000 (税込/全席指定) 〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22阪急西宮北1駅南改札口すぐ/JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

一般発売

11/16

日

芸術文化センター  
チケットオフィス

インターネット予約

※窓口での販売(残席がある場合)は11/18(火)より

☎0798-68-0255

(10:00AM - 5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日)

<https://www.gcenter-hyogo.jp>

芸術文化センター会員先行予約受付開始

11/15 土

※未就学児童はご入場いただけません。  
※やむを得ない事情により、出演者、曲目等が変更となる場合があります。  
あらかじめご了承ください。

主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

# モーツァルトの名作、交響曲第38番「プラハ」と「フィガロの結婚」

モーツァルトの名作「ドン・ジョバンニ」「皇帝ティートの慈悲」の初演地であり、「フィガロの結婚」が大成功をおさめた「プラハ」。この美しい中世の面影を残す街は、モーツァルトにとって非常に重要な都市でした。プラハにおけるモーツァルトの評価は非常に高く、「我がプラハは、私を理解してくれる」というモーツァルトの言葉が全てを語っています。モーツァルトはプラハの人々に熱烈に歓迎され愛されたのです。今回のプログラムでは、その美しい都市とかかわりが深い「交響曲 第38番」(通称“プラハ”)を中心にお届けします。この交響曲には「フィガロの結婚」のアリアのテーマがいくつか使われています。今回はその「フィガロの結婚」を室内楽編曲版の演奏でお楽しみください。そして同時期に作曲されたピアノ協奏曲、モーツァルトに影響を与えたミスリヴェチェクの交響曲を。関西発バロック音楽、古典派のスペシャリスト延原武春&テレマン室内オーケストラの演奏をぜひお聴きください!



## フォルテピアノ 高田泰治 TAIJI TAKATA, Fortepiano

2002年神戸新聞松方ホールにてテレマン室内オーケストラとともにピアノ、フォルテピアノ、チェンバロのそれぞれの協奏曲を一夜で演奏するという公演にてデビュー。2010年にはNHK「クラシック倶楽部」にてモーツァルト作曲ピアノ協奏曲 第12番をフォルテピアノで好演し話題となる。2011年5月にはバッハ研究の最高機関「バッハ・アルヒーフ」の定期演奏会に招聘される。現在はバロック・ヴァイオリンのU.ブンディースとデュオを結成しドイツでも演奏活動を展開中。平成23年度坂井時忠音楽賞、平成28年度咲くやこの花賞音楽部門、2018年度音楽クリティッククラブ賞奨励賞、令和2年度神戸市文化奨励賞を受賞。



## 指揮 延原武春 TAKEHARU NOBUHARA, Conductor

18世紀音楽を専門とする指揮者・オーボエ奏者。1963年に日本テレマン協会の前身であるテレマン・アンサンブルを創設。彼らを率いて「文化庁芸術祭・優秀賞」(関西初)・「第17回サントリー音楽賞」等を受賞。1982年、初演当時の編成とベートーヴェンの指定したテンポで「第九」を演奏(世界初)。2008年にはベートーヴェンの交響曲全曲を、作曲者指定のテンポとクラシカル楽器を使用して指揮。この公演が契機となり、ドイツ連邦共和国より「功労勲章功労十字小綬章」が贈られた。令和6年度地域文化功労者の表彰を受ける。



## 演奏 テレマン室内オーケストラ Telemann Chamber Orchestra

1963年に指揮者・延原武春が結成。延原の指揮のもとテレマン作曲「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」等数々の作品を本邦初演。主な受賞歴は、「大阪文化祭賞」、「音楽クリティッククラブ賞」、「大阪府民劇場賞」、「文化庁芸術祭優秀賞」(関西初)、「サントリー音楽賞」(関西初)等。

1990年バロック・ヴァイオリンのサイモン・スタンティジをミュージック・アドバイザーとし、バロック楽器(18世紀当時の楽器およびそのレプリカ)による演奏を始める。2003年にはドイツのバッハ・アルヒーフから招聘を受け「バッハ フェスティバル in ライプツィヒ 2003」に出演し、C.P.E.バッハ「チェンバロ協奏曲Wq1」を世界初演した。

2006年からはクラシカル楽器(古典派の時代に使用された楽器およびそのレプリカ)による演奏を始め、2007年には同楽器によるF.J.ハイドンのオラトリオ「四季」を好演。「大阪文化祭賞グランプリ」を受賞した。2008年にはクラシカル楽器による「ベートーヴェン交響曲全曲&荘厳ミサ曲」を連続公演。これがきっかけとなり延原はドイツ連邦共和国より功労勲章を受章した。2009年よりテレマン室内管弦楽団をあらため「テレマン室内オーケストラ」と改称。2012年にはドイツよりバロック・ヴァイオリンのU.ブンディースを首席客演コンサートマスターとして迎えた。2023年には協会創立60周年事業第300回定期演奏会で1829年のメンデルスゾーンによるバッハ「マタイ受難曲」蘇演を再現。その功績が認められ、令和5年度大阪文化祭賞を受賞。



<https://www.gcenter-hyogo.jp>

兵庫県立芸術文化センター  
Hyogo Performing Arts Center

先行予約会員へのご登録はこちら



## 便利なアクセス!!

大阪・梅田からも神戸・三宮からも  
ホールまで15分  
(阪急電車特急乗車の場合)

○阪急 西宮北口駅 南改札口 スグ(連絡デッキで直結)

○JR 西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

※ご来場は、電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

## アクセス

